

手持ちの機械を活用した予乾体系による ミニロール稲発酵粗飼料の経済性

研究のねらい

予乾体系によるミニロール稲発酵粗飼料の生産は、既存の保有機械を収穫調製に利用でき、かつ、軽量で、少頭数家畜飼養に見合った大きさのロールを作ることができる。このような予乾体系の経済性を示し、導入の際の参考とする。

成果の内容

- ①飼料イネ専用品種「べこごのみ」、30 a 区画、湛水直播による現地実証（岩手県一関市の飼料イネ栽培面積 8 ha の飼料生産集団）の結果である（写真）。
- ②10 a 当たり費用は、栽培に40,842円、収穫調製に30,039円、合計70,882円かかる（図）。
- ③10 a 当たり乾物収量は1,107kg（生重1,933kg、乾物率57.3%、平均ロール重：生重34kg、乾物19kg）である。
- ④したがって、乾物1kg当たり費用は64円である。
- ⑤これに対し、助成金10 a 当たり51,000円により、畜産農家に乾物 1 kg 当たり18円で販売可能となっている（図）。
- ⑥上記費用には、集団内での作業受委託や機械の借上げ、手持ち機械利用等に対する支払いが含まれ、これらを自前で賄えば、一定の手取額が確保できる（図）。

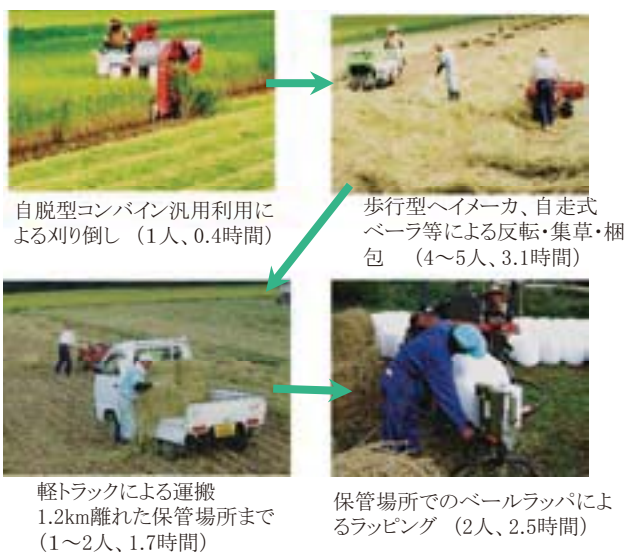


写真 作業工程と10a当たりのべ作業時間

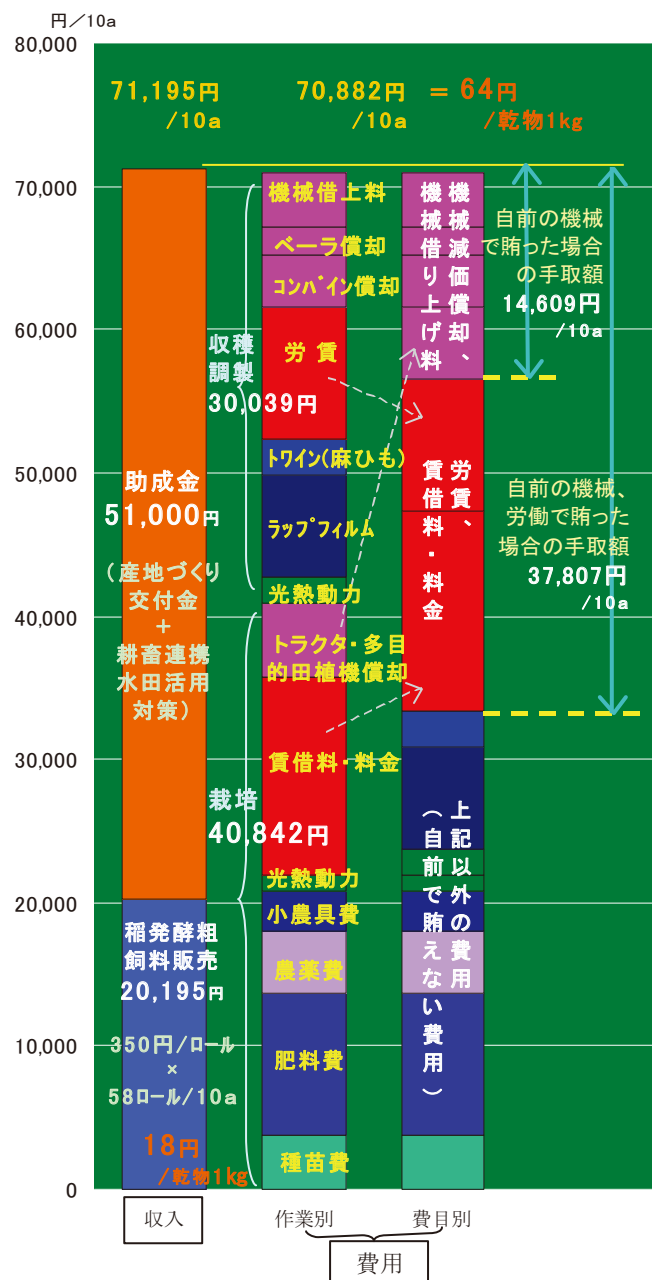


図 10a 当たり収入と費用